

週刊 **NEWSLETTER**

2025年も残りわずか。急速に少子化が進む中、各大学が生き残りをかけた戦略を打ち出しています。「選ばれる大学」を目指し様々な改革に取り組んだ1年を各学科、事務部門のトップに振り返ってもらいました。(NL編集部)

## 2025年を振り返る

## 改正私学法への対応を終えて

竹屋 元裕 理事長・学長

今年は4月1日施行の改正私学法への対応に注力した一年であった。法人のガバナンス強化に向けて、理事・評議員メンバーが新体制に移行し、私は6月から理事長兼務となった。リスク管理やコンプライアンス推進の内部統制システムも整備が進んでいる。1月に採択された「キラリと光る教育力」補助金の7つの事業も着々と成果を挙げており、ホップ・ステップ・ジャンプの第一歩（ホップ）を順調に踏み出すことが出来た。来年からはステップ、そしてジャンプである。

## 新たな課題への挑戦

上仲 一義 医学検査学科長

今年は新たな課題が見つかった年となりました。それは、本学科への入学希望者の顕著な減少です。オープンキャンパスへの参加者、総合型選抜試験および推薦型選抜試験の受験者のいずれも減少しています。この状況を受けて、学長、副学長のリーダーシップのもと、新たなプロジェクトが立ち上がりました。本プロジェクトでは、学科教員が一丸となって学科の魅力発信や、聖域のない教育内容の改革に取り組み、来年を「選ばれる医学検査学科」実現のスタートの年にしたいと考えています。

## 新体制移行 教育力強化にまい進

## 看護学科の教育の質保証に向けて

荒尾 博美 看護学科長

2025年の看護学科での取り組みの1つは、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」（令和6年度改訂版）に基づき、現行カリキュラムの見直しに取り組み始めたことです。さらに、11月からは、「看護学科在り方検討プロジェクト」が始動し、教育環境の整備、看護学科の将来像について検討を始めました。超高齢社会のニーズに応えられる人材育成、看護学科の教育の質の向上に向けて、これからも取り組んでまいります。

## 新たな体制であらたな活力の芽生え

河瀬 晴夫 事務局長

改正私立学校法の施行に伴い、内部統制システムや各種規程を整備し、その運用が本格的に問われた一年でした。6月からは竹屋新理事長（学長兼務）の体制が始動し、事務組織の再編や活性化に向けた議論が進展しました。さらに若手事務職員による「クマホの未来創造チーム」が自発的に改善提案を行い、組織に新たな成果と活力が芽生えました。制度改革と人材の挑戦が重なり、大学事務局にとって転換期を象徴する一年となりました。

## OT名称「作業療法学専攻」へ

田中 聡 リハビリテーション学科長

今年度、OT専攻は「生活機能療法学専攻」から「作業療法学専攻」へと名称を変更しました。PT専攻は、スポーツコースの定員を増やし、また、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（JSP0-AT）の資格取得もできるようになりました。ST専攻の言語発達臨床教育研究室では、宮本先生を中心に介護保険を受けられない失語症の患者さんを対象とした成人部門を新設しました。来年度も、リハ学科は革新を続けていきたいと思っています。



約千人の参加があった7月のオープンキャンパス

# 火事に備え消防設備を確認 年末の防火訓練70人参加

年末恒例の防火訓練が10日（水）、1号館とレストラン・図書館エリアの2カ所に分かれて実施され、教職員約70人が参加しました。

午前中に行われた1号館エリアの訓練では、総務課の担当職員が避難時の注意点や学生へ呼び掛ける際のポイント、学内の建物ごとの注意が必要な場所について詳しく説明。参加者は、映像を通じ火災が発生した際の役割について学びました。

今回初の取り組みとなった「消防設備の確認ツアー」では、1号館内の消火器や消火栓、防火扉とAEDの場所を確認。参加した教職員たちは指差し確認をしながら、合計33カ所を巡りました。確認後は3号館前芝生広場で放水訓練を実施。消火器の使い方や消火栓の水圧の強さを身をもって体験し、いざというときのための備えについて意識を高めていました。

参加者は「普段消火器の場所を気にしたことがなかったの、知ることが出来てよかった」「消火栓が重く、3人がかりで対応したほうがいいと思った」など、気づきや反省点を報告していました。（NL編集部）



消火栓からの放水の訓練では、水圧の強さに驚く声も

表彰状を手にする緒方さん。  
左は前田研究科長



## 緒方さん（臨床検査領域）を特別表彰

### レギュラトリーサイエンス学会学術大会で優秀賞

大学院臨床検査領域2年緒方遥菜さんが16日（火）、本学の特別表彰を受けました。緒方さんは今年9月に開催された第15回レギュラトリーサイエンス学会学術大会で「医薬品製造業者等における不正製造発生予防への行動経済学的側面からのアプローチ」と題した発表を行い、「優秀賞」を受賞しました。

1304講義室Mで前田ひとみ研究科長から表彰状を受け取った緒方さんは「自身の研究が評価されてうれしい。これからは修士論文に向けて頑張ります」と語っていました。（NL編集部）

## 閑話休題 高橋 元秀

## インフルエンザ

この冬、インフルエンザに罹患した。コロナには一度も感染しなかったが…。A型インフルエンザウイルスに感染し、発熱、悪寒、激しい頭痛に襲われ、約1週間、研究室を離れて静養した。振り返れば、この20年ほど感染した記憶はなく、「バカは風邪をひかない」という俗説を内心で否定しつつも、どこか他人事として受け止めていたのは事実である。

インフルエンザウイルスの表面抗原のヘマグルチニンHは宿主細胞への接着と侵入を担い、ノイラミニダーゼNは増殖を終えたウイルスが細胞を離れる際に働く。この二つの抗原の違いによって、ウイルスは多様な型に分けられる。H5N1型に代表される高病原性鳥インフルエンザは、主に動物の間で感染を広げ、ときに起こる人への感染が脅威となっている。コロナ禍を経てインフルエンザの流行年齢やウイルス型の分布は変化し、ワクチンの効果

や集団免疫の考え方も見直されつつある。さらに、感染防御は必ずしも特別な対策だけに限られない。日常的な歯磨きなどで口腔内環境を整えることで、唾液によるウイルス不活化を促し感染防御に影響する可能性も示されている。

今回の感染理由は、加齢による体力低下、強い感染株への暴露、そして患者との濃厚接触が考えられる。ワクチン効果について問われれば、微生物学者としては「効果はあった」と答えるべきだ。一方、患者として布団の中で免疫機構の働きをひたすら待った身には、症状軽減の恩恵を実感する余裕はなかった。身をもって感染を経験し、微生物と人間が共存し、ときにせめぎ合いながら生きている現実を改めて実感させられた。

Experience is the best teacher.

（毒素・抗毒素共同研究室特命教授）



## 4 年次生 緊張の発表 言語聴覚学専攻の卒業研究報告会

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の卒業研究報告会が8日（月）、1303講義室Mで開催され、4年次生27人がスーツ姿で発表に臨みました。

発表内容は、小児関連、摂食嚥下や失語症、日本の言語聴覚士制度など、様々な領域にわたりました。発表後の質疑応答では、「この研究を今後、臨床の場面でどのように生かしますか」といった卒業後を見据えた質問も飛び出すなど、全ての発表に対して、活発な意見交換が行われました。今年も2年次生が参加し、スライドと発表者たちを交互に見つめ、真剣な表情で聴いていました。（NL編集部）



質疑応答ではたくさんの学生が手を挙げ、活発なやりとりが行われました

### 看護学科3年次生「公衆衛生看護学概論Ⅱ」

## 「地区踏査」で地域住民の生活知る



こども園の先生（左側）からの逆質問で、幼いころの思い出を語る学生たち

看護学科3年次生の必修科目「公衆衛生看護学概論Ⅱ」（担当：角マリ子講師）は、地域で生活している人々の健康やQOL（生活の質）の向上について学びます。

12月の授業では14グループに分かれて大学周辺のスーパーや公民館、郵便局、神社などを歩いて回り、実際に目で見て確かめながら、地域住民に聞き込む「地区踏査」を行いました。

大学近くのこども園を訪れたグループは、子どもたちのかわいらしい姿に喜びつつ、園に勤める先生たちに「先生は何人いらっしゃるのですか」「地域とどのように関わっていますか」「災害への対策は」「自分たち若い世代にできることはありますか」など、積極的に質問。逆に先生から「保育園や幼稚園の時の思い出は」と聞かれ、学生たちは小さい頃を思い出しながら答えていました。（NL編集部）

授業  
拝見

ピア・サポ  
通信

### 多様な価値観 認め合える環境を

### 本年度第2回養成講座

令和7年度第2回養成講座を13日（土）1501講義室Mで開催し、ピア・サポーター42人、プチ・サポーター51人が参加しました。

今回の講座は「熊本保健科学大学におけるDE&Iを考える～共生社会に向けて～」をテーマに掲げ、グループワークを中心に行いました。DE&I（多様性、公平性、包括性）の視点から本学の取り組み（バリアフリー推進、優先席設置、カラーユニバーサルデザイン推進等）を確認した後、いくつかのワークで他者の感覚や価値観を共有しました。多様な価値観があることを知り、お互いが認め合える環境を、まずはピア・サポーターから作ってほしいと思います。

さて、本年度は12月23日（火）、24日（水）、25日（木）に後期定期試験対策相談会を開催しま

す。少し早めに試験対策を始めませんか。みなさんのご来場をお待ちしています。

（学生相談・修学サポートセンター）



「共生社会」について学んだ  
本年度第2回養成講座

週間行事予定（12月22日～1月13日）	
12/26（金）	仕事納め式
12/27（土）～1/4（日）	年末年始休暇
1/5（月）	仕事始め式
1/10（土）	キャリア教育研修センター入試

---

※週刊NEWSLETTER314号は1月13日（火）に配信予定です。